

令和8年度 都立橘高校 定時制課程
年間授業計画 第4学年

橘高等学校定時制 令和8年度 教科国語 科目国語表現 年間授業計画

教科 : 国語 科目 : 国語表現 単位数 : 2単位

対象学年組 : 第4学年 1組

教科担当者名 : (1組)

使用教科書 : (国語表現 大修館書店)

使用教材 : (自作プリント)

科目 国語表現 の目標 : 様々な表現方法を用いて、自己の考えを他者に伝える力を養う。原稿用紙に書くこと、メールで伝えること、スピーチやプレゼンテーションを行うことにより、実社会に必要な表現力を身に付ける。

【知識及び技能】		【思考力、判断力、表現力等】		【学びに向かう力、人間性等】			
主体的・対話的で深い学びを通して、実社会に必要な国語の知識や技能を身に付ける。		論理的に考える力、他者に共感する力、想像する力を伸ばし、言葉で伝えあう力を高める。		現代社会における多様な話題・題材に対して興味を持ち、言語活動を通して、主体的に学習する態度を身に付ける。			
単元の具体的な指導目標	指導項目・内容	評価規準	知	思	態	配当時数	
1 学期	○「自己の高校生活（過去）」、「社会人としての自己（未来）」について、まとめる。 ○社会生活に必要な漢字を学習する。	○過去・未来の自分について、文章化する。 ○プリント学習により、漢字力を身に付ける。	【知】漢字を適切に読み書きできる。 【思】過去・未来における自己の在り方について、適切に文章化できる。 【態】適切な日本語を用いて、自己の在り方を表現する。	○	○	○	24
2 学期	○自己の現在、及び社会的な問題について文章としてまとめる。 ○社会生活に必要な漢字を学習する。	○現在の自己、社会的な問題について、自己の考え方を論理的に表現する。 ○プリント学習により、漢字力を身に付ける。	【知】文章表現において、漢字を適切に使用できる。 【思】現在の自己の在り方及び社会的な問題について、適切に文章として表現できる。 【態】社会における自己の在り方を論理的に表現する。	○	○	○	28
3 学期	○今まで培ってきた国語力を用いて、実践的な文章読解を試みる。 ○社会生活に必要な漢字を学習する。	○問題演習を通して、自己の国語力の向上を図る。 ○プリント学習により、漢字力をより一層向上させる。	【知】論理的な文章を読解し、それについての意見を表現できる。 【思】文章から読み取れる社会的な課題について、自己の意見を論理的に表現する。 【態】文章読解に積極的に取り組む。	○	○	○	18
配 当 合 計 時 間						70	

橘高等学校定時制 令和8年度 教科公民 科目政治・経済 年間授業計画

教科 : 公民 科目 : 政治・経済 単位数 : 2単位

対象学年組 : 第4学年 1組

教科担当者名 : (1組)

使用教科書 : (最新政治・経済 実教出版)

使用教材 : (自作プリント)

科目 政治・経済 の目標 : 日本の政治制度や市場経済の機能について学び、よりよい社会の実現に向けて主体的に解決する力を身につける。

【知識及び技能】		【思考力、判断力、表現力等】		【学びに向かう力、人間性等】			
現代社会の基本原則を理解し、資料等から諸課題についてとらえる。		現代社会の諸課題について自分の意見を持ち、課題解決に向けて考える。		現代社会で起こっている事象に関心を持ち、よりよい社会の実現を目指す態度を養う。			
	単元の具体的な指導目標	指導項目・内容	評価規準	知	思	態	配当時数
1 学期	○民主政治の基本原則を学び、国民の政治参加について理解する。 ○国会、内閣、裁判所と三権分立について概略をとらえる。 ○日本の選挙制度について学び、現在の選挙における課題を資料から読み取る。	現代国家と民主政治 ○民主政治の基本原則 日本の政治制度と政治参加 ○日本の政治機構 ○政党政治と選挙制度	【知】民主政治の基本原則を学び、国民の政治参加の方法を理解している。 【思】日本の選挙制度と選挙における課題について自分の考えをまとめている。 【態】よりよい社会の実現に向けて、政治を通して主体的に行動することや解決の方法を考えようとしている。	○	○	○	10 14
2 学期	○市場経済における価格の変化を市場の原理から理解する。 ○株式会社のしくみと企業の社会的責任について理解し、企業の活動が社会問題の解決につながることをとらえる。 ○市場経済で貨幣が担う役割としくみを理解する。 ○政府の経済活動の機能をとらえ、その課題について考える。	現代の経済社会 ○価格と市場の役割 ○株式会社のしくみ ○貨幣の役割と金融 ○財政の役割と課題	【知】市場経済における価格の変化を市場の原理から理解している。市場経済で貨幣が担う役割と金融のしくみを理解している。 【思】政府が行う経済活動の機能についてとらえ、歳入と歳出のバランスから持続可能な財政の在り方について自分の考えをまとめている。 【態】身近な株式会社の具体例から、投資によって企業を通して社会的課題を解決に導く方法を意欲的に追及している。	○	○	○	28
3 学期	○消費者の権利、労働者の権利、社会保障制度の概要を理解する。 ○消費者問題の具体例から、自分が消費者問題にあった場合、どのように解決することができるか考える。 ○日本の社会保障と財政の関係を資料から読み取りその課題についてとらえる。	現代の日本経済と福祉の向上 ○消費者問題 ○労働問題と労働者の権利 ○社会保障の役割と課題	【知】消費者の権利、労働者の権利、社会保障制度の概要を理解している。 【思】消費者問題の具体例から、自分事としてとらえ、消費者問題にあった場合の解決方法について、自分の考えをまとめようとしている。 【態】日本の社会保障制度の内容、社会保障と財政の関係を資料から読み取り、今後の社会保障の在り方について課題解決の方法を考えようとしている。	○	○	○	18
配 当 合 計 時 間							70

橘高等学校定時制 令和8年度 教科 数学 科目 数学A 年間授業計画

教科 : 数学 科目 : 数学A 単位数 : 2単位

対象学年組 : 第4学年 1組

科担当者名 : (1組)

使用教科書 : (東京書籍 改訂版 新数学A)

使用教材 : (なし)

科目 数学A の目標 : 数学的な見方・考え方を働かせ、数学的活動を通して、数学的に考える資質・能力の育成を目指す。

【知識及び技能】		【思考力、判断力、表現力等】		【学びに向かう力、人間性等】			
数学における基本的な概念や原理・法則などを体系的に理解し、数学的に解釈したり表現・処理したりすることに関する技能を身に付けている。		数学を活用して事象を論理的に考察する力、事象の本質や他の事象との関係を認識し統合的・発展的に考察する力、数学的な表現を用いて事象を簡潔・明瞭・的確に表現する力を身に付けている		数学のよさを認識し主体的に学習に取り組もうとしていること。また、最後まで諦めずに理解しようとする努力の姿勢を身に付けていること。			
単元の具体的な指導目標	指導項目・内容	評価規準	知	思	態	配当時数	
1学期	・場合の数 【知】集合などの基礎知識を身に付ける。 【思】場合の数の性質を理解する。 【学】理解を深める。	1章1節 場合の数 集合 集合の要素の個数 個数の数え方 和の法則と積の法則	【知】事象と言葉の意味を理解して問題に活用している。 【思】身近な事象について場合の数の求め方を考察、理解している。 【学】興味・関心を持ち場合の数の求め方を理解しようとしている。	○	○	○	10
	・場合の数と確率 【知】組合せや確率などの基本知識を身に付ける。 【思】確立などの性質を理解する。 【学】理解を深める。	1章1節 場合の数 順列、順列の利用 いろいろな順列 組合せ、組合せの利用 2節 確率 事象と確率、確率の計算 排反事象の確率、余事象の確率、独立な試行の確率	【知】組合せや確率の考え方を利用して立式・計算し理解を深めようとしている。 【思】事象を考察し、順列、組合せの考え方と結び付けて考えている。 【学】興味・関心を持ち身近な事象についても取り組もうとしている。				15
2学期	・図形の性質 【知】比についての基本知識を身に付ける。 【思】三角形、四角形の性質を理解し、問題に活用できる。 【学】理解を深める。	2章2節 三角形の性質 三角形と比 三角形の重心・外心・内心 3節 円の性質 円の接線 円周角の定理 円に内接する四角形 接線と弦のつくる角 方べきの定理	【知】三角形の性質について学習し理解していること。知識を利用して、線分の長さや角の大きさを求めることができる。 【思】学習した知識を活用しながら考え、解決に向けて判断し表現することができる。 【学】基本的な知識を活用して応用する力がある。課題に真面目に取り組む解説などをしっかりと聞き、板書の書き写しができる。 【知】円の性質について学習し理解していること。知識を利用して、角の大きさや線分の長さを求めることができる。 【思】基本的な性質をもとにより良い解き方を見付けようと考察している。 【学】興味・関心を持ち、他者の考え方を理解しようとしている。	○	○	○	12
	・数学と人間の活動 【知】整数の基本知識を身に付ける。 【思】倍数や約数の性質を理解する。 【学】理解を深める。	3章1節 数や位置を表す 数の表し方のしくみ 2進法 2節 数のつくりを調べる 約数と倍数 最大公約数と最小公倍数 ユークリッドの互除法	【知】自らが積極的に素因数分解に取り組む、理解しようとしている。 【思】約数や倍数の性質をもとに相互の関係を理解し、考察している。 【学】興味・関心を持ち、発展させようとしている。	○	○	○	20
配 当 合 計 時 間						70	

橋高等学校定時制 令和8年度 教科 保健体育 科目 体育 年間授業計画

教科 科 : 保健体育 科目 : 体育 単位数 : 2単位

対象学年組 : 第4学年 1組

教科担当者名 : (1組 .)

使用教科書 : (現代高等保健体育 大修館書店)

使用教材 : (体育器具)

科目 体育 の目標 : 生涯にわたって心身の健康の保持増進を目指し、豊かなスポーツライフを送れる資質と能力を養う。

【知識及び技能】		【思考力、判断力、表現力等】		【学びに向かう力、人間性等】			
・運動の合理的、計画的な実践を通して、運動の楽しさや喜びを味わい、生涯にわたって運動を継続できるようにするため、運動の多様性や体力の必要性について理解しているとともに、それらの技能を身につけている。		・生涯にわたって運動を豊かに継続するための課題を発見し、合理的、計画的な解決に向けて思考し判断するとともに、自己や仲間の考えたことを他者に伝えている。		・生涯にわたって継続して運動に親しむため、運動における競争や協働の経験を通して、公正に取り組む、互いに協力する、自己の責任を果たす、参画する、一人一人の違いを大切にするとともに、健康・安全を確保している。			
単元の具体的な指導目標	指導項目・内容	評価規準	知	思	態	配当時数	
1 学期	・柔軟運動、体幹トレーニングを行い、柔軟性向上・体幹を強化する(体づくり運動)。 ・自分のペアや相手のペアの特徴に応じた作戦をたて、勝敗を競う楽しさや喜びを味わい、各種ストローク、サーブなどの安定したボールの操作や、ダブルスにおけるパートナーとの連携した動きを高めて、ゲームを展開できるようにする(卓球)。	・体づくり運動 ・卓球 ・体力テスト測定	【知】自己の狙いに応じ効果的な成果を得るための適切な運動の行い方があることについて、言ったり書いたりしている。 ・自分のペアや相手のペアの特徴に応じた作戦をたてることのできる(卓球)。 【思】体力の程度や性別等の違いを超えて、仲間とともに運動を楽しむための調整の仕方を見つけている。 【態】危険の予測をしながら、回避行動をとるなど、健康・安全を確保している。	○	○	○	1 19 6
	・卓球は上記と同様。 ・自チームや相手チームの特徴に応じた作戦を立て、勝敗を競う楽しさや喜びを味わい、状況に応じたパスやトス、アタックなどのボール操作と攻守などのチームメイトと連携した動きを高めて、ゲームを展開できるようにする(バレーボール)。 ・状況に応じたパスやシュートなどのボール操作と攻守などのチームメイトと連携した動きを高めて、ゲームを展開できるようにする(フットサル)。	・卓球 シングルス及びダブルス ・バレーボール ・フットサル	【知】自己の狙いに応じ効果的な成果を得るための適切な運動の行い方があることについて、言ったり書いたりしている。 ・状況に応じたパスやシュートなどのボール操作と攻守など、チームメイトと連携した動きをすることができる(フットサル)。 【思】体力の程度や性別等の違いを超えて、仲間とともに運動を楽しむための調整の仕方を見つけている。 【態】危険の予測をしながら、回避行動をとるなど、健康・安全を確保している。	○	○	○	6 12 12
3 学期	・運動やスポーツの意義や効果と学び方や安全な行い方について、理解することができるようにする(体育理論)。 ・体を動かす楽しさや心地よさを味わい、健康の保持増進や体力の向上を図る(体づくり運動)。	・体育理論 ・体づくり運動	【知】体力の構成要素は、健康に生活するための体力と運動を行うための体力に密接に関係していることについて、言ったり書きだしたりしている。 ・健康の保持増進や体力の向上を図る運動を無理なく行うことができる(体づくり運動)。 【思】体力の程度や性別等の違いを超えて、仲間とともに体づくり運動を楽しむための調整の仕方を身につけている。 【態】体づくり運動の学習に主体的に取り組もうとしている。	○	○	○	7 7
	配 当 合 計 時 間						70

橋高等学校定時制 令和8年度 教科外国語 科目論理・表現Ⅰ 年間授業計画

教科 : 英語 科目 : 論理・表現Ⅰ 単位数 : 2単位

対象学年組 : 第3学年 1組

教科担当者名 : (1組)

使用教科書 : (VISTA Logic and Expression Ⅰ)

使用教材 : (なし)

科目 論理・表現Ⅰ の目標 : 英語の基礎知識を復習し、中学英語の定着と高校英語への発展を目指す。

【知識及び技能】		【思考力、判断力、表現力等】		【学びに向かう力、人間性等】			
英語の基礎知識を身に付ける。 英語の検定にチャレンジする。		知識を活用しながら自分を表現する力を身に付けている。		主体的に学習に取り組もうとしている。			
単元の具体的な指導目標	指導項目・内容	評価規準	知	思	態	配当時間	
1 学期	比較 (比較級/最上級/as...as ~) 助動詞① (can/may) 助動詞② (must/have to/should)	日常生活/対話での驚く表現を学ぶ。 日常生活/スピーチの場面で、理由を述べる表現を学ぶ。 地域での活動/ホームページで、事実を伝える表現を学ぶ。	【知】 進行形や助動詞を理解し、概要や要点を捉える技能を身に付けている。 【思】 進行形や助動詞を用いて、提示された写真について、考えや気持ちを話して伝えている。 【態】 進行形や助動詞を用いて、提示された写真について、考えや気持ちを話して伝えようとしている。	○	○	○	4 12 11
2 学期	受動態 不定詞① (名詞的用法) / 動名詞 不定詞② (副詞的用法 / 形容詞的用法) 分詞 (現在分詞 / 過去分詞)	日常生活/対話の場面で、同意する表現・図表の説明を学ぶ。 学校生活/スピーチの場面で、順序を述べる表現を学ぶ。 社会生活/ホームページ/プレゼンテーションの場面で、出典・引用を示す表現や例示の仕方を学ぶ。 本・新聞・雑誌/意見・感想文の場面で、意見を述べる表現を学ぶ。	【知】 不定詞・動名詞を理解し、概要や要点を捉える技能を身に付けている。 【思】 不定詞・動名詞を用いて、好きな動物について、健康に関することや空いた時間について、考えや気持ちを話して伝えている。 【態】 不定詞・動名詞を用いて、好きな動物について、健康に関することや空いた時間について、考えや気持ちを話して伝えようとしている。	○	○	○	12 12
3 学期	関係代名詞 仮定法 (If ~ / I wish ~)	日常生活/対話の場面で、同意する表現・図表の説明を学ぶ。 学校生活/スピーチの場面で、順序を述べる表現を学ぶ。 社会生活/ホームページ/プレゼンテーションの場面で、出典・引用を示す表現や例示の仕方を学ぶ。 本・新聞・雑誌/意見・感想文の場面で、意見を述べる表現を学ぶ。	【知】 関係代名詞・仮定法を理解し、概要や要点を捉える技能を身に付けている。 【思】 関係代名詞・仮定法を用いて、国際協力やSDG'sについて、考えや気持ちを話して伝えている。 【態】 関係代名詞・仮定法を用いて、国際協力やSDG'sについて、考えや気持ちを話して伝えようとしている。	○	○	○	9 10
配 当 合 計 時 間							70

橘高等学校定時制 令和8年度 教科産業 科目産業実習 年間授業計画

教科 : 産業 科目 : 産業実習 単位数 : 3単位

対象学年組 : 第4学年1組

教科担当者名 : (1組)

使用教科書 : (なし)

使用教材 : (補助プリント)

目 標 : 作業について興味・関心を持ち、発言や手順を考え、他者と協働して取り組めること。

産業科の科目として販売・展示を視野に入れ作品作りを行う。

【知識及び技能】		【思考力、判断力、表現力等】		【学びに向かう力、人間性等】				
各作業の準備、片付けや基本的な知識・技術の習得をするとともに、各種操作方法等の理解を深め、最後まで諦めずに作品を製作できる力を身に付ける。		各作業の作品製作にともなう説明を的確に把握し、考察を深めるとともに、産業技術基礎に関する知識と技術を活用しながら表現する力を身に付けている。		各作業で作品製作に興味・関心を持ち、産業技術基礎の意義や役割の理解および諸問題の解決を目指して主体的に学習に取り組もうとしている。				
	単元の具体的な指導目標	指導項目・内容	評価規準	知	思	態	配当時数	
1 学期	卒業制作としてねぶた製作を行う。 ねぶたの歴史を学ぶ。 基本的な製作法を学ぶ (金魚ねぶた製作) ねぶたを製作させる。	青森ねぶたの始まりから現在までの歴史を探る。	基本道具・材料の基礎的な扱い方が分かる。 【知】作業に対して発言やノートを取り、理解を深めようとしている。 【思】手順通りに製作しようとしている。またはより良い方法を考察しようとしている。 【学】興味・関心を持ち、他者を理解し、協働して取り組もうとしている。	○	○	○	12	
		手ごろなサイズで基本が学べる金魚ねぶたを作る。					24	
2 学期	<ul style="list-style-type: none"> デザインを考案させる。 校内を移動できるようにサイズを検討させる。 全体の形状を考案する。 デザインに合わせ土台を作る。 土台上に垂木で骨格を作る。 針金を伸ばしデザインに合わせた骨組みを作る。(タコ糸をボンドで接合させる) 骨組みの中に光源とする電球を配線する。 針金に和紙を張る。 	制作するねぶたの構想をねる。	基本道具・材料の基礎的な扱い方が分かる。 【知】作業に対して発言やノートを取り、理解を深めようとしている。 【思】手順通りに製作しようとしている。またはより良い方法を考察しようとしている。 【学】興味・関心を持ち、他者を理解し、協働して取り組もうとしている。	○	○	○	18	
		サイズも含めたデザインを考える。					24	
		移動することを視野に入れ十分な土台を作る。	骨格となり電飾を設置する骨組みを作る。					
		針金で外形をつくり						
3 学期	<ul style="list-style-type: none"> 着色する際に色がにじまないように、境に溶かした口ウを塗る。 着色し完成させる。 実習内容をプレゼンテーション・ビデオにまとめる。 プレゼンテーションの準備 プレゼンテーションの実施 	和紙を張る。	基本道具・材料の基礎的な扱い方が分かる。 【知】作業に対して発言やノートを取り、理解を深めようとしている。 【思】手順通りに製作しようとしている。またはより良い方法を考察しようとしている。 【学】興味・関心を持ち、他者を理解し、協働して取り組もうとしている。	○	○	○	27	
		溶かした蠟で境を作り着色する。						
							配 当 合 計 時 間	105

橘高等学校定時制 令和8年度 教科 産業 科目 ソフトウェア 年間授業計画

教科 科 : 産業 科目 : ソフトウェア 単位数 : 2 単位

対象学年組 : 第4 学年 1 組

教科担当者名 : (1 組)

使用教科書 : (なし)

使用教材 : (補助プリント使用)

目 標 : PC 操作について興味・関心を持ち、発言や手順を考え、他者と協働して取り組めること。

日本情報処理検定協会の各検定試験合格を目標にする。

【知識及び技能】		【思考力、判断力、表現力等】		【学びに向かう力、人間性等】			
PC の基本操作を理解し、正確なタイピングを身に付ける。 各種検定試験の過去問題を反復練習し、合格できる力を身に付ける。		各検定試験の過去問題について解答方法を理解し、規定時間内に正確に打ち込む力を身に付ける。		各検定試験の過去問題に対して、正確に解答し主体的に反復練習するとともに上級の問題に取り組む前向きな姿勢を身に付ける。			
単元の具体的な指導目標	指導項目・内容	評価規準	知	思	態	配当時数	
1 学期 PC の基本操作を理解する。 検定の合格レベルを目指し練習する。	① タイピング練習 情報処理技能検定 日本語ワープロ 4 級～3 級程度	【知】基礎的な知識を身に付け、PC 操作やタイピングを学ぶことの必要性や重要性について理解している。 【思】日本語ワープロ検定の解答方法の一巡の流れについて理解している。 【態】資格取得の必要性や重要性を理解し、検定の演習に主体的かつ協働的に取り組もうとしている。	○	○	○	25	
2 学期 PC の基本操作を理解する。 検定の合格レベルを目指し練習する。	プレゼンテーション 4 級～3 級程度	【知】基礎的な知識を身に付け、PC 操作やタイピングを学ぶことの必要性や重要性について理解している。 【思】プレゼンテーション検定の解答方法の一巡の流れについて理解している。 【態】資格取得の必要性や重要性を理解し、検定の演習に主体的かつ協働的に取り組もうとしている。	○	○	○	25	
3 学期 PC の基本操作を理解する。 検定の合格レベルを目指し練習する。	文書デザイン 4 級～3 級程度 表計算 4 級～3 級程度	【知】基礎的な知識を身に付け、PC 操作やタイピングを学ぶことの必要性や重要性について理解している。 【思】文書デザイン・表計算検定の解答方法の一巡の流れについて理解している。 【態】資格取得の必要性や重要性を理解し、検定の演習に主体的かつ協働的に取り組もうとしている。	○	○	○	20	
配 当 合 計 時 間						70	

橘高等学校定時制 令和8年度 教科 産業 科目 ものづくり理論 年間授業計画

教科 : 産業 科目 : ものづくり理論 単位数 : 2単位

対象学年組 : 第4年 1組

教科担当者名 : (1組)

使用教科書 : (なし)

使用教材 : (ICT機器、各工業製品・部品、工具類)

目 標 : ものづくりに興味・関心を持ち、発言や手順を考え、他者と協働して取り組めること。

産業に関する歴史を学び、工業材料の知識を身に付ける。

真鍮の加工を通して、金属の性質・金属加工の基礎を習得する。

産業科の科目として販売を視野に入れ作品作りを行う。

【知識及び技能】		【思考力、判断力、表現力等】		【学びに向かう力、人間性等】			
工業で使われる材料について基本的な知識を習得するとともに、製造方法等の理解を深める。最後まで諦めずに理解する聞く力を身に付ける。		各製品・部品の働き・製造にともなう説明を的確に把握し、考察を深めるとともに、ものづくりに関する知識と製造技術を活用しながら説明する力を身に付けている。		各製品・部品の製造過程に興味・関心を持ち、ものづくりの基本を理解し、より良いものづくりを目指して主体的に学習に取り組もうとしている。			
単元の具体的な指導目標	指導項目・内容	評価規準		知	思	態	配当時数
1 学期	・工業材料の基礎知識 【知】金属の基本的知識を身に付ける。 【思】成分による性質の変化を理解する。 【学】材料について理解を深める。	・人類の進化と道具の利用 ・金属利用の歴史 鉄、銅、アルミの製造方法 合金の性質・加工方法・熱処理 ・動力の利用 ・原動機について	【知】作業に対して発言やノートを取り、理解を深めようとしている。 【思】基本的な働きを理解しようとしている。また、より良い利用方法を考察しようとしている。 【学】興味・関心を持ち、他者を理解し、協働して取り組もうとしている。	○	○	○	25
2 学期	・工業製品の代表として自動車について学ぶ。 【知】部品ごとの金属の知識を身に付ける。 【思】必要な性質を持たせる製造工程を理解する。 【学】材料について理解を深める。	・自動車の各装置について ・ガソリンエンジンの構造・作動 ・各システムの部品の働き	【知】作業に対して発言やノートを取り、理解を深めようとしている。 【思】基本的な働きを理解しようとしている。また、より良い利用方法を考察しようとしている。 【学】興味・関心を持ち、他者を理解し、協働して取り組もうとしている。	○	○	○	25
3 学期	・金属の性質 【知】真鍮の基本的性質を習得する。 【思】安全な製作作業を習得する。 【学】丁寧な作業で作品を製作し、準備・片付けなどを協力して行う。	(真鍮加工) ・道具の準備、片付け ・器具の取り扱い ・加熱する際の安全作業	【知】作業に対して発言やノートを取り、理解を深めようとしている。 【思】基本的な工作法を理解しようとしている。また、より良い方法を考察しようとしている。 【学】興味・関心を持ち、他者を理解し、協働して取り組もうとしている。	○	○	○	20
配 当 合 計 時 間							70

橘高等学校定時制 令和8年度 教科産業 科目情報演習（4年） 年間授業計画

教科：産業 科目：情報演習（4年） 単位数：3単位

対象学年組：第4学年 1組

教科担当者名：（1組）

使用教科書：（なし）

使用教材：（自作プリント等）

科目 情報演習 の目標：産業科として、多様なビジネスシーンに役立つ情報の収集、処理、分析、表現と活用について考え、理解させる。

また、具体的にアプリケーションソフトやプログラミング言語などを使いそれらを実務的に行う技術や力を養う。

【知識及び技能】		【思考力、判断力、表現力等】		【学びに向かう力、人間性等】			
・ビジネスシーンに応じた情報の収集、処理、分析、表現を行うことができる知識や技術を身につけさせる。		・ビジネスに関する情報を論理的に考えさせる。 ・収集した情報を必要に応じて活用し、的確に判断して表現できるようにする。		・主体的に学習に取り組むことができるようにする。 ・他者の意見をよく聞くことができるようにする。			
単元の具体的な指導目標	指導項目・内容	評価規準	知	思	態	配当時間	
1学期	課題に則して情報を収集し、それらをもとに適確な資料を作成したり、プレゼンテーションしたりする力を身につける。	・指導項目 課題に則した情報の収集と表現 ・教材 自作プリント 表計算ソフト（EXCEL） ・一人1台端末の活用 （Teams Forms など）	【知】情報の収集と分析の意義、種類について理解している。・データとデータベースの基礎知識を理解している。・表計算ソフトウェアの基本的な使い方ができる。 【思】場面に応じたプレゼンテーションソフトでの作成ができる。・場面に応じたプレゼンテーションソフトウェアでの表現ができる。・基本的な関数の利用やグラフ作成ができています。 【態】場面に応じて、積極的に考えることができる。・自分の意見を他者に的確に伝えようとしている。・他者の意見や発表をよく聞こうとしている。・課題に対して具体的に考え、理解しようと取り組んでいる。・場面に対して、関心を持ち積極的に取り組んでいる。・協働的な学習を通じ、課題を解決しようと取り組んでいる。	○	○	○	12 24
	課題に則して情報を収集し、それらをもとに更に適確な資料を作成することによりビジネスシーンに役立てる力をつける。	・指導項目 企業活動の現状と関連するモラルや法規 ・教材 自作プリント ネット教材（関連するサイトや公開されている検定過去問題など） 表計算ソフト（EXCEL） ・一人1台端末の活用 （Teams Forms など）	【知】情報の意義と役割について理解している。・情報社会とモラル、法規について理解している。 【思】情報社会と法規について、身近な問題を具体的に考え、判断することができる。・応用的な関数や応用的なグラフ作成について理解し利用できている。・個人情報や知的財産の保護について具体例により考え、判断することができる。 【態】課題に対して具体的に考え、理解しようと積極的に取り組もうとしている。・協働的な学習を通じ、課題を解決しようと取り組んでいる。	○	○	○	18 24
3学期	プログラミングについて基礎知識を理解する。	・指導項目 プログラミングと表現 ・教材 自作プリント （JavaScript microbit など）	【知】プログラミングについて基礎知識を理解している。 【思】基本的なプログラミング言語について理解し利用できている。 【態】基本的なプログラミング言語について理解しようとしている。	○	○	○	27
配 当 合 計 時 間							105

橋高等学校定時制 令和8年度 教科産業 科目ビジネス経営 年間授業計画

教 科： 産業 科目：ビジネス経営 単位数：2単位

対象学年組： 第4学年 1組

教科担当者名： (1組)

使用教科書： (簿記 東京法令出版)

使用教材： (自己作成プリント)

目 標： 商業の見方・考え方を働かせ、実践的な学習活動をおこなうことなどを通して、取引の記録と財務諸表の作成に必要な資質・能力を育成する。

【知識及び技能】		【思考力、判断力、表現力等】		【学びに向かう力、人間性等】			
・経済活動と取引、簿記の原理について理解するとともに、関連する技術を身に付けている。		・適確に判断し諸帳簿に記帳することができる。 ・簿記の目的である財政状態と経営成績を明らかにすることなどについて、知識を活用しながら理解する力を身に付けている。		・主体的に学習に取り組もうとしている。			
単元の具体的な指導目標	指導項目・内容	評価規準	知	思	態	配当時数	
1 学期	全経簿記能力検定2級レベルの問題を解き、実践的な簿記の力を身に付けさせる。 これまでの学習を総合的に理解させ、達成体験も得られるようにする。	【知】 演習問題を理解し、意味や要点を捉える技能を身に付けている。	○	○	○	4	
		【思】 演習問題を正確に解き、さらに諸帳簿の作成を体系的に思考することができる。				12	
		【態】 各種帳簿や資料を用いて、企業の財政状態及び経営成績を把握しようとしている。				12	
2 学期	全経簿記能力検定2級や、日商簿記検定3級レベルの問題を解き、実践的な簿記の力を身に付けさせる。 これまでの学習を総合的に理解させ、達成体験も得られるようにする。	【知】 演習問題を理解し、意味や要点を捉える技能を身に付けている。	○	○	○	12	
		【思】 演習問題を正確に解き、さらに諸帳簿の作成を体系的に思考することができる。				18	
		【態】 各種帳簿や資料を用いて、企業の財政状態及び経営成績を把握しようとしている。					
3 学期	日商簿記検定3級レベルの問題を解き、実践的な簿記の力を身に付けさせる。 これまでの学習を総合的に理解させ、達成体験も得られるようにする。	【知】 演習問題を理解し、意味や要点を捉える技能を身に付けている。	○	○	○	12	
		【思】 演習問題を正確に解き、さらに諸帳簿の作成を体系的に思考することができる。					
		【態】 各種帳簿や資料を用いて、企業の財政状態及び経営成績を把握しようとしている。					
配 当 合 計 時 間						70	

橘高等学校定時制 令和8年度 教科産業 科目ビジネス演習 年間授業計画

教 科： 産業 科目：ビジネス演習 単位数：2単位

対象学年組： 第4学年 1組

教科担当者名： (1組)

使用教科書： (商品開発と流通 実教出版)

使用教材： (自己作成プリント)

学習の到達目標： 商品開発とマーケティングについて実務に即して体系的に理解し、基礎知識を活用しながら商品開発等について考案することができる。

【知識及び技能】		【思考力、判断力、表現力等】		【学びに向かう力、人間性等】			
商品開発の基礎知識を身に付ける。 マーケティングの基礎知識を身に付ける。		商品開発やマーケティングの基礎知識を活用しながら、商品開発について自ら考えることができる。		商品開発やマーケティングの学習に対して、主体的に学習に取り組もうとしている。			
単元の具体的な指導目標	指導項目・内容	評価規準	知	思	態	配当時数	
1 学期	ヒット商品や定番商品などの商品開発について調べ学習を行い、商品開発の意義と手順や流通について基本的なことを理解する。	商品開発の意義と重要性 流通の基礎的な仕組み	【知】商品開発や流通について概要や要点を理解している。 【思】商品開発について考案することができる。 【態】商品開発や流通について正しく理解しようとしている。	○	○	○	8 16
2 学期	商品の企画の意味や目的を理解し、要点を理解する。 商品開発に必要な意思決定や分析手法について理解する。 SWOT分析、3C分析等	環境分析 市場調査 商品コンセプト 商品のライフサイクルや競争上の位置付けを明確にして商品開発の方針を決定するなど	【知】商品の企画や各種手法の意味を理解し、概要や要点を捉えることができる。 【思】SWOT分析などの手法を使って、商品の企画や提案をすることができる。 【態】商品を取り巻く環境等に関心を持ち、自ら進んで学習し、課題に取り組もうとしている。	○	○	○	12 16
3 学期	商品とデザインについて理解し要点を捉えることができる。	商品のデザイン ポスター作成	【知】商品のデザインやポスターなどの目的や技法を理解し、基礎知識を身に付けている。 【思】商品のデザインやポスター作りについて考案することができる。 【態】商品のデザインやポスター作りに関心を持ち、積極的に取り組もうとしている。	○	○	○	18
配 当 合 計 時 間							70